



PRESS RELEASE

報道関係 各位

2020 年 5 月 15 日

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

新型コロナウイルス感染拡大に伴う 第 20 回全国障害者スポーツ大会（鹿児島県） 開催に向けた鹿児島県知事との WEB 会談について

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会（東京都中央区／会長 鳥原光憲）は、先月から、国民体育大会を含めた標記に関する会議をスポーツ庁、鹿児島県、日本スポーツ協会および当協会の 4 者で実務レベルの協議を行っています。

本日、15 日には、鹿児島県三反園知事と当協会会長による WEB 会談を行い、新型コロナウイルス感染拡大の現状と今後の動向を見据えながら、安全、安心に大会が開催できることを前提に、開催の可否について、引き続き、スポーツ庁、日本スポーツ協会を含め 4 者で検討、協議していくことを確認しましたので、お知らせいたします。

当協会としましては、開催の可否について、6 月中を目途に 4 者のトップレベルの会合にて決定していくこととしています。

【鳥原会長発言要旨】

- 本年10月からの鹿児島県大会の開催については、専門家から、「大勢の人が移動すること自体が大きな問題である」こと、また、「障がいのある方は、基礎疾患のある方もおり、感染した場合、重篤な症状に進行する可能性が高い」との意見もあり、大会への派遣に際しては、派遣元も非常に心配しているところである。



- 昨日、39県の緊急事態宣言が解除されたが、特定警戒都道府県の8県は依然として宣言下であり、現在、全国的大規模なスポーツイベントについては、慎重な対応をとることとされており、引き続き、今後の推移を見極める必要がある。
- 当協会の4月調査では、都道府県・指定都市での個人競技予選会では、約7割が中止（3割弱は昨年度に開催済み）となり、団体競技のブロック予選会は9割以上が中止となっている。各派遣元では、選手選考方法等について協議しているところであるが、会議等が開催できない状況にあり、難航しているとの声が寄せられている。
- 当協会には、「早期に大会開催可否の判断」を求める声が多数寄せられている。
- 新型コロナウイルスの感染拡大により、すべての関係者の安全を確保した上で大会を開催できる状況にあるのか、判断する必要がある。
- このような中、これまで鹿児島県が長年にわたり、大会成功に向けて準備されてきたことを重く受け止め、今後主催4者（スポーツ庁、鹿児島県、日本スポーツ協会、当協会）において、開催の可否などについて、検討していきたいと考えている。
- なお、鹿児島大会の開催可否については、6月中に判断することで4者において合意しているが、互いに協力して、可能な限り早期に判断できるよう、我々も努力していきたいので、ご協力をお願いしたい。

<本件に関するお問合せ先>

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

企画情報部（広報担当）：黒田、赤星

Mail : jpcjpsa-media@jsad.or.jp